

# 消化器がん化学療法中における支持療法としての人參養榮湯への期待



**座長** 加島 雅之 先生

熊本赤十字病院 総合内科 部長/  
熊本大学医学部 臨床教授/  
宮崎大学医学部 臨床教授

**演者** 福原 研一朗 先生

市立藤井寺市民病院 診療局長・  
外科診療部長・消化器外科長・麻酔科長



## 支持療法における人參養榮湯への期待

消化器がんの予後改善には、「新規の有効性の高い化学療法の開発」と「レジメンどおりの治療継続」のバランスが求められることから、メンテナンス(支持療法)が重要となる。

がん化学療法の副作用として嘔気・嘔吐や食欲不振、全身倦怠感、口内炎や手足のしびれ、脱毛などの症状が経時的にゆっくりと出現する。その背景には、骨髄抑制や肝機能障害・腎機能障害、貧血、間質性肺炎や血栓症などがある。補剤の中でも人參養榮湯はそれぞれのポイントにおける作用を有することが確認されている(図1)。そこで、がん化学療法中の支持療法としての人參養榮湯の効果と可能性について検討した。

を継続できた。

### ● 症例2：65歳 女性、上行結腸がん

mFOLFOX6による術後補助化学療法を施行したところ、2コース目から血球数が徐々に低下した。そこで、4コース目から人參養榮湯の投与を開始したところ、徐々に血球数が増加し、複数回の化学療法の継続施行でも骨髄機能の維持は可能であり、用量を減量することなく化学療法を継続できた。

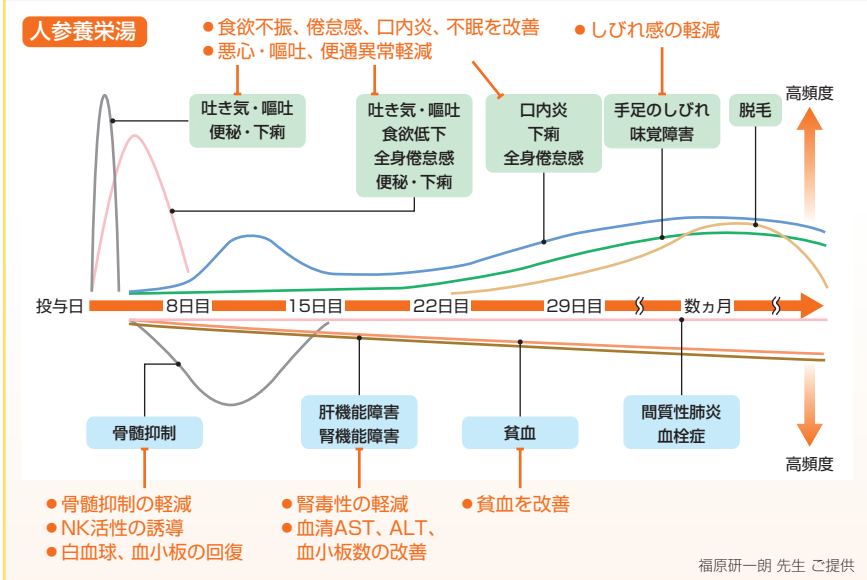
## PDでもないのに化学療法が中止となる原因

### 一 骨髄抑制<sup>1)</sup>

#### ● 症例1：76歳 女性、直腸がん

mFOLFOX6による術後補助化学療法の施行直後から血球数が徐々に低下したため、人參養榮湯の投与を開始したところ、投与開始直後から血球数の顕著な上昇が認められた。人參養榮湯の投与開始後に複数回の化学療法を施行したが、骨髄機能を維持できたため、用量を減量することなく化学療法

図1 がん化学療法の副作用に対する人參養榮湯



● 症例3：83歳 女性、胃がん、術  
4年3ヵ月後に胃がん再発

SOX療法(S-1+oxaliplatin)を開始したところ、血球数減少のため用量を減量したが3コース目で中止となった。その後、閉塞性黄疸をきたしたため、PTX+ramによる2次化学療法を導入した。早期に骨髄抑制から中止になることが懸念されたため、導入と同時に人參養栄湯の投与を開始したところ、骨髄機能を維持することができたため、複数回の化学療法を継続できた。

一末梢神経障害<sup>2)</sup>

抗がん剤投与による末梢神経障害は現代医学的に対処が困難であり、大きな問題となっている。末梢神経障害には、軸索障害と神経細胞体障害の2つがある。

軸索障害は薬剤投与の中止によって比較的元に戻りやすいが、オキサリプラチンやシスプラチンなどに代表される神経細胞体障害は薬剤投与を中止しても元に戻りにくいという問題点がある。

● 症例1：74歳 女性、下行結腸がん

術後、FOLFOX療法の開始10週(5コース)経過後より食欲不振と末梢神経障害の訴えがあった。人參養栄湯の投与(4~8週)で症状はいずれも改善し、化学療法を減量することなく13コースまで完遂できた。

● 症例2：80歳 男性、胃がん

術施行前から、TS-1/CDDP(SP)療法を開始したところ、疲労感や食欲低下、末梢神経障害が出現した。人參養栄湯を投与(4~8週)したところ、末梢神経障害は消失した。

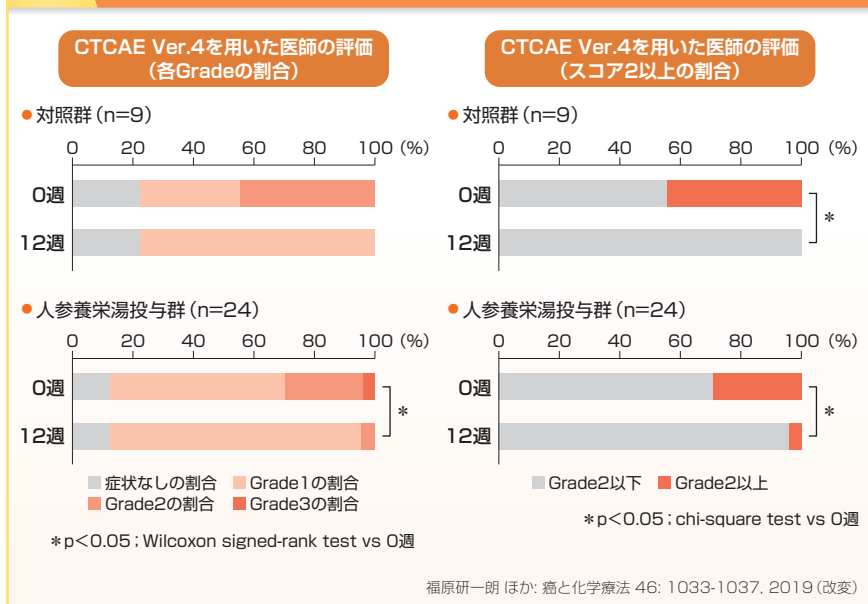
● 症例3：79歳 女性、膵臓がん

ゲムシタピン(GEM)単剤で治療後にFOLFIRINOXに変更したところ、疲労感や末梢神経障害が出現した。人參養栄湯を投与(4~8週)したところ、症状は改善し、病勢が進行するまで58コースの長期にわたりFOLFIRINOXを継続できた。

一全身倦怠感<sup>3)</sup>(図2)

演者は、消化器がんに対してがん化学療法を施行し、Performance Status(PS) ≤2で疲労感を有する患者を対象

図2 消化器がん化学療法の副作用軽減に対する人參養栄湯の有効性



に、人參養栄湯の臨床効果を検討した。人參養栄湯の服用に同意した患者(24例)を人參養栄湯投与群、服用には同意しないが研究参加に同意した患者(9例)を対照群とした。

試験開始12週後のCTCAE Ver.4を用いた評価の結果では、人參養栄湯の投与で疲労感の高いグレードの割合は減少し、スコア≥2の重度症例に関しても疲労感に関しては重症の割合が減少した。手足のしびれについては有意な変化はなかった。

以上の結果から、消化器がん化学療法中の患者において、人參養栄湯投与により「疲労感」の症状改善効果が認められた。

まとめ

消化器がん化学療法中の患者において人參養栄湯の末梢神経障害、骨髄機能抑制、疲労感といった症状の改善効果が示された。消化器がん化学療法の継続性の向上から、予後改善への影響や有効性の樹立も今後の課題であると考えている。

【参考文献】

1) 福原研一朗 ほか: 癌と化学療法 49: 789-792, 2022  
2) 福原研一朗: phil漢方 76: 25-27, 2019  
3) 福原研一朗 ほか: 癌と化学療法 46: 1033-1037, 2019